

令和5年度 決算（連結）の概要

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区 分	令和4年度 決算 A	令和5年度 決算 B	対前年度増減額・率		令和6年度 計画 ※
			B-A	(%)	
営業収益	11,086	11,115	29	0.2%	12,652
高速道路事業	10,495	10,450	△ 44	△0.4%	11,930
(料金収入)	7,917	8,164	247	3.1%	7,892
(道路資産完成高)	2,504	2,265	△ 238	△9.5%	4,038
(その他の営業収益)	74	20	△ 53	△72.2%	-
関連事業	672	679	6	1.0%	728
(SA・PA事業)	311	340	28	9.1%	342
(受託・その他の事業)	360	339	△ 21	△5.9%	385
セグメント間取引の消去	△ 81	△ 14	66	-	△ 6
営業費用	11,137	11,059	△ 77	△0.6%	12,598
高速道路事業	10,572	10,439	△ 132	△1.2%	11,910
(道路資産賃借料)	5,579	5,708	129	2.3%	5,414
(道路資産完成原価)	2,504	2,265	△ 238	△9.5%	4,038
(管理費用等)	2,488	2,465	△ 23	△0.9%	2,457
関連事業	647	634	△ 12	△1.9%	694
(SA・PA事業)	288	300	12	4.2%	310
(受託・その他の事業)	359	334	△ 25	△6.9%	383
セグメント間取引の消去	△ 82	△ 14	67	-	△ 6
営業利益（△損失）	△ 51	55	106	-	53
高速道路事業	△ 76	11	87	-	19
関連事業	25	44	19	79.2%	34
経常利益（△損失）	△ 17	90	107	-	54
親会社株主に帰属する 当期純利益	73	87	13	18.3%	46

※) 令和6年度計画は、一定の前提・予測に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により、上記計画と異なる可能性があります。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
関連事業	SA・PA事業 高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業 国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業 駐車場事業、トラックターミナル事業等

■ 営業損益(連結)の解説

(1) 高速道路事業

- 高速道路事業の営業収益は1兆450億円となりました。(対前年度44億円の減)
 - ・料金収入については、前年度に比べて交通量の増加^{※1}に伴い対前年度247億円増の8,164億円となりました。
 - ・道路資産完成高^{※2}(独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「機構」)に引き渡す高速道路資産の譲渡高)については、前年度に比べて道路資産の引き渡し規模が小さいため、対前年度238億円減の2,265億円となりました。

※1 通行台数 296万台/日(前年度比1.9%増)

※2 主な開通等

- ・令和4年度・・・首都圏中央連絡自動車道 久喜白岡JCT～大栄JCT 4車線化
仙台南部道路 今泉IC～長町IC 4車線化
- ・令和5年度・・・東北自動車道 都賀西方スマートIC
関越自動車道 三芳スマートIC(東京方面出入口等の整備(フル化))

- 高速道路事業の営業費用は1兆439億円となりました。(対前年度132億円の減)
 - ・道路資産賃借料^{※3}については、対前年度129億円増の5,708億円となりました。
 - ・道路資産完成原価(高速道路建設に係る費用)については、道路資産完成高と同額の2,265億円を計上しています。
 - ・管理費用等については、労務単価や資材費の高騰による維持管理費の増加があったものの前年度に完了した跨道橋耐震対策事業^{※4}の減などにより、対前年度23億円減の2,465億円となりました。

※3 道路資産賃借料について

料金収入の実績が、機構と高速道路会社(以下「会社」と)との協定に定める計画収入の一定割合を超えて変動する際には、一定割合を超える部分について会社から機構に支払う道路資産賃借料を加減算する仕組みとなっております。

令和5年度については、協定に基づく道路資産賃借料の年度計画額に対し、1,042億円の加算となりました。

※4 跨道橋耐震対策事業について

高速道路の安全な交通を確保するため、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)のうち、ロッキング橋脚の橋梁に対する耐震対策事業を実施し、令和4年度ですべて完了しました。

- この結果、高速道路事業は、11億円の営業利益(前年度は76億円の営業損失)となりました。

(2) 関連事業

- SA・PA事業の営業収益は340億円となりました。(対前年度28億円の増)
 - ・前年度に比べ、交通量の増加に伴い店舗売上^{※5}が増加したことによるものです。
- ※5 SA・PA店舗売上高(飲食物販等) 1,677億円(前年度比9.4%増)
- SA・PA事業の営業費用は300億円となりました。(対前年度12億円の増)
 - ・店舗売上の増加に伴い売上原価等が増加したことによるものです。
 - この結果、SA・PA事業では39億円の営業利益(前年度は23億円の営業利益)、受託事業・その他の事業を加えた関連事業全体は、44億円の営業利益(前年度は25億円の営業利益)となりました。

【参考】令和5年度 決算（個別）の概要

（単位：億円（単位未満切捨て））

区 分	令和4年度 決算 A	令和5年度 決算 B	対前年度増減額・率	
			B-A	(%)
営業収益	10,861	10,865	3	0.0%
高速道路事業	10,436	10,447	10	0.1%
(料金収入)	7,917	8,165	247	3.1%
(道路資産完成高)	2,504	2,265	△ 238	△9.5%
(その他の売上高)	14	16	1	13.2%
関連事業	425	418	△ 7	△1.6%
(SA・PA事業)	90	100	10	11.3%
(受託・その他の事業)	335	318	△ 17	△5.1%
営業費用	10,979	10,899	△ 79	△0.7%
高速道路事業	10,557	10,492	△ 65	△0.6%
(道路資産賃借料)	5,579	5,708	129	2.3%
(道路資産完成原価)	2,504	2,265	△ 238	△9.5%
(管理費用等)	2,473	2,517	44	1.7%
関連事業	422	407	△ 14	△3.4%
(SA・PA事業)	85	89	3	4.3%
(受託・その他の事業)	336	318	△ 18	△5.3%
営業利益（△損失）	△ 117	△ 34	83	-
高速道路事業	△ 121	△ 45	75	-
関連事業	3	10	7	203.9%
経常利益（△損失）	△ 78	11	89	-
当期純利益	35	24	△ 11	△31.8%

【参考】令和5年度のトピックス

【高速道路事業】

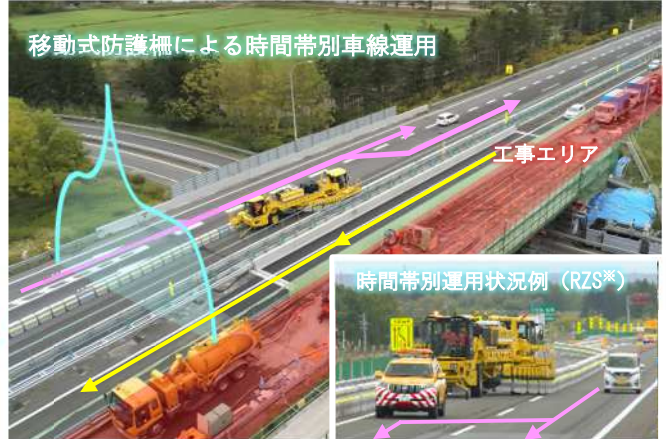
■高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、可能な限り交通への影響を抑えつつ、老朽化した橋りょうの対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。令和5年度においては、道央自動車道 江別東ICの江別東IC橋など、40橋の床版取替工事、3本のトンネル補強工事を完了しました。



門型クレーンによる床版架設状況

関越自動車道 阿能川橋床版取替工事



道央自動車道 江別東IC橋床版取替工事

※ロードジッパーシステム(RZS)・・・コンクリート防護柵の設置位置を専用の防護柵切替車両により移動させることができるシステム

■高速道路の機能強化

高速道路の有効活用や地域経済の活性化等を推進するため、各地の自治体と協力し、スマートICの整備を進めており、令和5年度は5箇所のスマートICが開通しました。また、令和6年3月27日に、4路線の4車線化事業と1箇所のJCT改築事業について国土交通大臣の事業許可を受けました。

◎令和5年度の開通及び事業許可の状況

種別	日付	道路名	区間・名称	自治体
開通	9/10	東北自動車道	都賀西方スマ-IC	栃木市(栃木県)
	12/17	長野自動車道	筑北スマ-IC	筑北村(長野県)
	3/10	関越自動車道	三芳スマ-IC(フル化)	三芳町(埼玉県)
	3/20	東北自動車道	花巻PASマ-IC	花巻市(岩手県)
	3/24	東北中央自動車道	山形PASマ-IC	山形市(山形県)

種別	日付	道路名	区間・名称	自治体・延長・内容
事業許可	9/8	上信越自動車道	(仮称)屋代スマ-IC	千曲市(長野県)
		北関東自動車道	(仮称)壬生PASマ-IC	壬生町(栃木県)
	3/27	道東自動車道	追分町IC～夕張IC	約4.1km
		秋田自動車道	横手北スマ-IC～大曲IC	約7.9km
		常磐自動車道	山元南スマ-IC～山元IC	約5.5km
		磐越自動車道	西会津IC～津川IC	約8.7km
		仙台北部道路	富谷JCT	フル化

【関連事業】

■SA・PA商業施設のリニューアルオープン

東北自動車道 佐野SA(下り線)では、令和5年7月13日に芝生広場とドッグランを開設し、旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」としてグランドオープンしました。全体を一つの大きな“Park(パーク)”に見立てた「佐野パークSA」をコンセプトに、開放的なロケーションやご当地の逸品、地元愛あふれるグルメの数々をお楽しみいただけます。また、令和6年3月25日には、東北自動車道 岩手山SA(上下線)がリニューアルオープンしました。岩手県産の食材を使用したメニューや東北地方のお土産物を多数取り揃え、地域の魅力を感じていただけます。



外観

▲佐野らーめん

東北自動車道 佐野SA(下り線)



上り線ショッピングコーナー

▲岩手山クリームチーズサンド

東北自動車道 岩手山SA(上下線)



下り線フードコート

▲菜彩鶏の親子丼